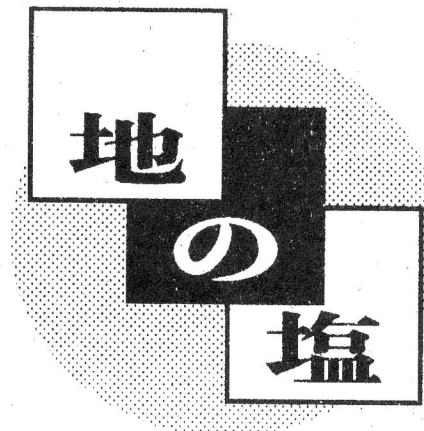


薬物依存症の青年がクリスマスに洗礼を受けた。そのミサの中で初めて聖体のイエスを迎えた彼は、心の中で熱く燃えるものを感じたという。

実際、翌日には熱を出して一日中寝込んでしまった。その後も聖体拝領する度に心が温かくなるといふ。もう倒れるようなことはないが…▼洗礼式に参加することはできなかったが、後日、彼に会った。喜びにあふれた顔は、大げさではなく、輝いて見えた。あらゆる悪条件の中で生きて来た彼は薬物依存症者の回復施

設にたどり着き、何度も挫折しながらも、より高いところからの力（彼らはそれをハイアーパワーと呼んでいるが）を求め



て生き始めた。仲間と一緒に聖書を読み、イエスは自分のような者のために来てくれたのだと気づき、以後、イエスを「親分」として生きる決意を

する。この先、どのような道を歩むのか…時々わき上がってくる不安の中にも、希望を持って新たな道を歩み始めた▼昨年十月からことしの十月までの期間を、教皇ヨハネ・パウロ二世は「聖体の年」と定めた。聖体は言うまでもなく、私たちにとっての神からの最高の恵みの一つである。あらためてこのようなスローガンを掲げる必要もないとは思うのだが、現実として聖体の素晴らしさの認識が足りないのだから▼教皇の呼び掛けに応えるべく、聖体行列や聖

体賛美式、聖体礼拝のような信心業を勧める向きもあるが、何より大切なのは聖体祭儀であると思う。イエスのあがないのいけにえ、弟子たちとした最後の食事の記念であるミサは最高、かつ十分なものであり、神の愛が最も表されたしるしである。ミサが習慣的になされたり、その典礼行為が無造作に行われているところ、まず改めなければならぬことと思う。この点に関しては、まず司祭の努力が求められる。聖体は私たちを熱くする。